



35年県人口100万人維持

知事 初の短期目標へ

大分県の佐藤樹一郎知事は4日、2035年までの目標として県人口100万人を維持する方針を示した。現状は今後10年間で10万人減り、98万人台になる見通し。想定を上回る人口減のペースに危機感は強く、改定する人口ビジョンに初めての短期目標として盛り込む。対策として出産・子育てがしやすい環境づくりのほか、移住・定住施策も一段と推進する。(20面に関連記事)

県人口は108万519人 立社会保障・人口問題研究所(24年10月時点)。国所(東京)の推計では35年

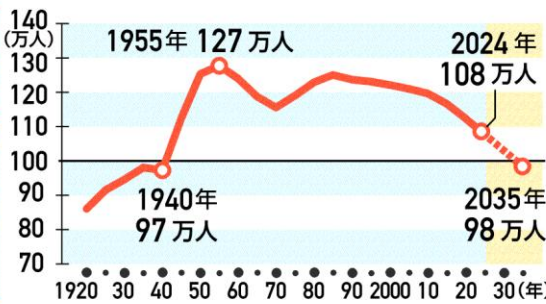


2035年の県人口100万人を維持の目標を示した佐藤樹一郎知事=4日、県議会

に98万4098人と100万人を割り込み、45年には88万8208人まで減少する。

県によると、23年の出生数は6259人、合計特殊出生率は1・39で、いずれも過去最低となっている。5年ごとに見直す人口ビジョンは本年度が改定年。現行の人口目標は2100年に90万~100万人だが、10年後の35年の数値を

示すことでより現実味を持たせる。合計特殊出生率は2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計値



大分県の人口

若い世代が希望通りの数の子どもを持てる「希望出生率」1・84まで引き上げる目標とする。

ビジョンに併せて改定する県の総合戦略は「まち」「ひと」「しごと」の3本柱に加え、「ひとやものの流れ」の柱を増やす。広域交通ネットワークの充実に伴う経済・観光振興、若者・女性を中心とした移住促進などに力を入れ、人口維持につなげる。

佐藤知事は「人口減少の流れを変えることは容易ではないが、引き続き市町村とも緊密に連携しながら粘り強く取り組む」と述べた。県議会で三浦正臣氏(自民党)の一般質問に対する答弁。(江藤嘉寿)

大分県の人口は1955年が約127万人でピークだった。高度経済成長期の若者流出で70年に115万人まで減少。大分市の新産業都市指定に伴う大工場の立地などで85年には125万人まで回復したが、それ以降は減少傾向が続いている。



〔問①〕 大分県の人口は2024年10月時点で何人ですか。

108万5198人

〔問②〕 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2035年の大分県の人口は？

98万4098人

〔問③〕 佐藤知事は2035年の人口を100万人台を維持するとしています。対策として考えていることは？

出産・子育てがしやすい環境づくり、移住・定住施策の推進

〔問④〕 大分県の人口減少を止めるため、どうしたらいいと思いますか。考えよう。

自由記述